強者の戦略

今回の問題に取り組んでみて、「はっきり言ってこの問題は難しくありません」という前回の言葉が本当だったことが分かったと思います。事実、私自身もはじめてこの問題に挑んだとき、あまりの読みやすさに拍子抜けしてしまいました（もっとも、本番さながらに解くのであれば 20 分くらいしか時間はかけられないので、読み落としや誤読が命取りになる、という意味ではあなどれないのですが)。

ですが、私は初見で満点を取ることができませんでした。

自己採点の結果を突きつけられて、「なんで!?」と慌てて本文を読み直し、解説を読んでようやく出題意図を理解して、その意図を読み取れなかった自分のふがいなさに溜め息をつき、「そうか、東大英語の難しさは問題そのもののが難しいってことじゃあないんだな」と痛感したものでした。と言っても、問題自体が簡単なのではなく、正解するために必要な知識事項の多くが基本的なものだったのです。但し、それらの事項の理解が深いレベルに到達していなければ足下を掬われることになります。その意味では、やはり東大英語はあなどれません。

それでは、解答を確認してゆきましょう。

(1) 空所(　(1)　)を埋めるのに最も適当な語句を次のうちから選び，その記号を記せ。
（ア） eventually he began to see
（イ） now he could no longer see
（ウ） now he could see
（エ） still he could not see

選択肢を見て最初に気付くのは、(ア)と(ウ)は「見る」なのに対し、(イ)と(エ)は「見ない」となっていることです。彼は見るのか見ないのかに注意して空所を含む文を見てみましょう。

Well. Simple Peter stood there in great surprise for a long while, and then he looked in the mirror again, and (　(1)　) himself, even when he put his nose right up against it.
訳：さて、お人好しのピーターはひどく驚いて、暫くの間そこに立ち尽くしていました。それから彼は再び鏡の中を覗いてみると、鼻を鏡にくっつけてみても、自分の姿は(　(1)　)。

空所の直前に he looked in the mirror **again** とあるので、ピーターが鏡の中を覗いたのは初めてではないことがわかります。そして空所へは and でつながっているので、鏡を覗いた結果も 1 回目と同じである可能性が高いです（and は順接なので、前の内容から推測できるものが後ろに続くことになるからです)。
それでは、実際に 1 回目のシーンを見てみましょう。

Simple Peter held the mirror up to his face and peered into it. First he turned one way, then he turned the other. Finally, he shook his head and said, 'Well, it may be a magic mirror, but it's no good to me. I can't see myself in it at all.'
訳：お人好しのピーターは鏡を顔の高さにまで持ち上げると、鏡の中を覗き込みました。はじめは横を向き、それから反対の方向を向きました。等々彼は頭を振ってこう言いました。「ううん、確かに魔法の鏡なのかもしれないけど、僕には何の役にも立ちませんよ。僕の顔が全く見えないんだもの」

I can't see myself in it at all とあるので、1 回目にピーター顔は鏡に映っていなかったことが分かります。従って、空所に入るのは(イ)か(エ)ということになります。

この二択に絞る方法はもうひとつあります。空所の直後の **even when** he put his nose right up against it がそうです。even when は even if や even though と同様に譲歩を導くので、「鼻を鏡にくっつけてみても」と対比となる選択肢は「見えない」の意味の(イ)か(エ)だと分かります。

(イ)と(エ)の違いは、(イ)には no longer が、(エ)には still があることです。no longer は「(以前はそうだったが）もはや～ない」、still は「依然として、相変わらず」という意味ですので、今回の文脈では 1 回目も 2 回目も同じ結果（何も見えない）となっていますので、still を用いた(エ)が正解となります。

(2) 空所(　(2)　)を埋めるのに最も適当な語句を次のうちから選び，その記号を記せ。
（ア） go　　（イ） know　　（ウ） run　　（エ） see

この問題は単なる動詞の語法の問題ですが、中途半端な知識しか持ち合わせていないと痛い目を見てしまう恐れがあります。空所を含む文を見てみましょう。

'Thank you,' said Peter, 'I'll (　(2)　) if I can catch it,' and he ran off down the road.
訳：「ありがとう」とピーターは言いました。「そいつに追いつけるかどうか(　(2)　)」そしてピーターは道を走り去って行きました。

最初に注意すべきは、空所の直後にある if 節の解釈です。が、さすがにこれを副詞節と解釈するのは無理があるでしょう。仮に副詞節だとするなら「I'll (　(2)　)」で 1 つの文となる筈なので選択肢は自動詞の(ア)と(ウ)に絞られるのですが…いずれも無理があります。というのも、続く文が and he ran off down the road となっているので、「もしそいつに追いつけるなら行ってみます／走ってみます」と言っておきながら、追いつけるかどうかが判明しないまま走り去るという支離滅裂なストーリーになってしまうからです。

従って、選択肢の候補は残る(イ)と(エ)に絞られますが、know も see も他動詞なので if 節は名詞節（know/see の目的語）として解釈することになります。形式的には know も see も if 節を目的語に取れそうに思えるのですが、結論から言うと know は if 節を目的語に取ることはできません。というのも、know の目的語には事実的情報しか入ることが出来ないからです。そもそも、「SV-かどうかを知っている」（know if SV-）といった遠回りな言い方をするよりも「SV-だと知っている」「SV-でないと知っている」と言う方が自

然ですから。もっとも、「SV-かどうか分からない」（don't know if SV-）という言い方は、答えが分からないという事実的情報を伝えてくれるので問題ありません。残る選択肢 see は「～を調べる」という意味もあるので、(エ)が正解となります。

(3) 文脈から判断して，下線部(3)の語句にはどのようなニュアンスが伴っていると考えられるか。最も適当なものを次のうちから選び，その記号を記せ。
（ア） clever　（イ） evil　（ウ） fast　（エ） stupid

下線部(3)は the farmer の最後の発言の一部となります。最後の発言の意味を理解するためには対話全体の流れを掴む必要があります。

Just then a farmer came riding past. 'Excuse me,' said Simple Peter, 'but have you seen my reflection ? I can't find it in this mirror.'
'Oh,' said the farmer, '<u>I saw it half an hour ago, running down the road</u>.'
'Thank you,' said Peter, 'I'll see if I can catch it,' and he ran off down the road.
The farmer laughed and said to himself, 'That Simple Peter is (3)<u>a real goose</u> !' and he went on his way.
訳：ちょうどその時、１人の農夫が馬に乗って通りかかりました。「すいません、」とお人好しのピーターは言いました。「鏡の中の僕を見かけませんでしたか。この鏡の中にはいないんです」
「ああ」と農夫は言いました。「<u>それなら半時間ほど前に見たぞ。あっちの方へ走っていったな</u>」
「ありがとう」とピーターは言いました。「そいつに追いつけるかどうかやってみます」そしてピーターは道を走り去って行きました。
農夫は笑うと、「あのお人好しのピーターは本当にガチョウみたいだな」と心の中で呟きました。そして、彼はそのまま行ってしまいました。

ポイントは、下線の引かれた部分の発言になります。the farmer のこの発言は、後に the blacksmith によってこう評されてしまいます。

The blacksmith, who was a kind man, shook his head and said, 'John the farmer has been telling you (　(4)　). Your reflection can't run away from you. Look in the mirror, and you'll see it there all right.'
訳：鍛冶屋は親切な人だったので、頭を振るとこう言いました。「農夫のジョンはお前に(　4　)を教えたんだよ。鏡の中のお前がお前から逃げていくわけがないだろう。鏡を覗いてごらん。そいつはそこにちゃんといるから」

このように照らし合わせてみると、the farmer がピーターに嘘をついていて、the blacksmith がそのことをピーターに告げていることが分かります。そして the farmer は、嘘を鵜呑みにしてしまったピーターを評

して下線部のような発言をしたのです。従って、正解はピーターに対する否定的な評価を表している(エ)stupid が正解となります。ちなみに、a goose は a foolish person の隠語として用いられることがありますが、そのことを知らなくても正解は導き出せることがお分かり頂けると思います。

そして、(3)が正解できれば続く(4)の答えも自ずと見えてきます。

(4) 空所(　(4)　)を埋めるのに最も適当な語句を次のうちから選び，その記号を記せ。
（ア） facts　（イ） news　（ウ） rumours　(エ) stories

先ほども述べたように、the farmer は嘘を言っていたわけですから、選択肢の中から「嘘」という意味をもつ選択肢を選べばよいわけです。正解は、(エ)stories となります。これは純粋な語彙問題のように思えますが、そもそも story（物語）とは「作り話」、すなわち「嘘」なわけですから、言葉の意味を吟味する習慣が身についている人であれば自力で答えに辿り着くことができるでしょう。

(5) 空所(　(5)　)を埋めるのに最も適当な語句を次のうちから選び，その記号を記せ。
（ア） began to see himself as he really was
（イ） decided not to look like a goose
（ウ） made up his mind to get rid of the mirror
(エ) set off to seek his fortune

この問題は、基本的な論理展開が把握できていれば楽勝だったでしょう。

'I only see a goose,' said Peter, 'but *I'm* not a goose. I'll show you all ! <u>I'll seek my fortune</u>, and then you'll see me as I really am !'

So Peter (　(5)　).
訳：「ガチョウしか見えません」とピーターは言いました。「でも、*僕*はガチョウなんかじゃない。今に見てろよ。出世してやるぞ。そうすればみんなが僕をありのままに見てくれるようになるだろう」

こうして、ピーターは(　5　)。

接続詞の so には、前文までの内容を受けての結論を導く働きがありますので、正解選択肢は前文までの内容と矛盾しないものを選ぶことになります。すると、選択肢(エ)が上記の文の下線部と対応しているので、これが正解だと判断できます。

(6) 空所(　(6)　)を埋めるのに長も適当な語句を次のうちから選び，その記号を記せ。
（ア） Just as　（イ） Just that　（ウ） Such as　（エ） Such that

ある意味では、この問題が最も簡単だったかもしれません。というのも、文構造上、空所に入れることができる選択肢は１つに絞られるからです。

Peter went on, and suddenly he heard a terrible sound. He looked round a rock and there he saw the dragon. (　(6)　) the woodcutter had said, it was fifty times as big as himself and it was sharpening its teeth with a stone. 訳：ピーターが先を進んで行くと、突然恐ろしい物音が聞こえてきました。岩のあたりを見回すと、そこにドラゴンがいるのが見えました。木こりが言っていた(　6　)、そいつはピーターの５０倍も大きくて、石で歯を研いでいるところでした。

it was 以下の文と、the woodcutter had said を繋ぐことのできる接続表現は just as しかないので、(ア)が正解となります。ちなみに、(ウ)の Such as は後ろに名詞を伴うので、(6)の位置に入れることはできません。

(7) 空所(　(7)　)を埋めるのに最も適当な英語１語を記せ。

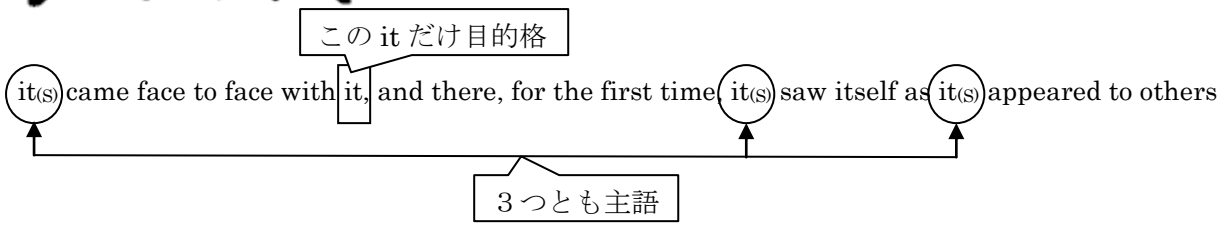
この問題も、(6)と同じくらい簡単な問題です。注目すべきは直後の語句です。

Now Peter, who was after all not so (　(7)　) despite his nickname, had hidden the magic mirror there, 訳：さて、ピーターはあだ名の割にはそんなに(　7　)ではなく、そこに魔法の鏡を隠しておいたのです。

despite his nickname「あだ名の割には」とあるので、ピーターのあだ名を本文中から探せば良いわけですが、この文章の冒頭から何度も **Simple** Peter と出ていますので、答えが simple だということはすぐに分かったと思います。ちなみに、simple には「単純な」という意味に加えて「お人好しの、だまされやすい、愚かな」という意味もあります。

(8) 下線部(8)に出てくる 4 つの it のうち，指すものが違うものが１つだけある。その it が何番目に出てくるかを数字で記し，さらに，それが指しているものを文中から選び，定冠詞(the)に続けて英語で記せ。

下線部(8) <u>it came face to face with it, and there, for the first time, it saw itself as it appeared to others</u> のように１文中に複数の、しかも同じ代名詞が出てくる場合、指示対象はその代名詞が担っている文構造上の役割に対応していることが多いです。今回であれば、４つの it のうち３つは主語の位置にありますが、１つだけ前置詞の後ろに、つまり目的格の位置にあります。ですから、この目的格の it の指示対象を答えれば良いことになります。



もう少し詳しく見てゆきますと、１つ目の it と２つ目の it が同じ指示対象ではないことがすぐに分かります。もし両者共同じ指示対象ならば、３つ目の it を含む文がそうであるように、目的格の it は itself となる筈ですから。あとは、続く２つの it と同じ指示対象となるのはどちらか、と考えてゆけば…同じ主語同士である１つ目の it がそうだと考えるのが自然でしょう。

問題は、１・３・４つ目の it と２つ目の it の指示対象は何なのかです。

> Now Peter, who was after all not so simple despite his nickname, had hidden **the magic mirror** there, and so when **the dragon** came leaping round the rock (S)it came face to face with it, and there, for the first time, it saw itself as it appeared to others
> 訳：さて、ピーターはあだ名の割にはそんなにお人好しではなく、そこに魔法の鏡を隠しておいたのです。だから、ドラゴンが岩を飛び越えてきたとき、ドラゴンはその鏡と向き合うことになりました。そしてそこで、ドラゴンははじめて他の人たちの目に映る自分自身の姿を見てしまったのです。

結論から言いますと、１・３・４つ目の it の指示対象は the dragon、２つ目の it の指示対象は the magic mirror となります。３つの it は主語の位置にあったので、直前の文の主語にある名詞 the dragon が指示対象の第一候補となります（主語にある名詞、ということでは Peter も候補になりうるのですが、人を it で指すのは NG なのでここでは除外できます）。２つ目の it の候補はいきなり１つに絞れません。the rock と the magic mirror、his nickname の３つが候補として考えられます。あとは、後ろに続く文脈（それに向き合うと、他の人の目に映る自分自身の姿を見ることになった）に合致する言葉を選ぶことになります。

> (9) 空所(　(9)　)に入れて意味が正しく通るよう，下の語を並べ替えよ。
> else　　everyone　　him　　how　　saw　　was　　which

語句整序問題は 2013 年度にも出題されていますが、それに比べるとかなり平易な問題です。但し、空所の直前までの文の流れを見落とすと足下を掬われかねません。

> He saw himself as a brave, fierce lion, (　(9)　).

空所の前で文は完結していて、しかも直前にあるのは名詞です。この後ろに文を続けるためには接続表現が必要となりますので、which と how が先頭に来る候補となります。もっとも、how は先行詞に lion をとることはできませんので、which から始めれば良いことはすぐに分かったと思います。which 以下には名詞の欠落した文が続きますので（which は関係代名詞）、「which was how everyone else saw him」という主語

の欠落した関係代名詞節を作れば完成です。

(10) 空所(　(10)　)を埋めるのに最も適当な語を次のうちから選び，その記号を記せ。
（ア） changed　（イ） found　（ウ） got　（エ） wanted

(11) 空所(　(11)　)を埋めるのに最も適当な語を次のうちから選び，その記号を記せ。
（ア） attacked　（イ） burnt　（ウ） killed　（エ） tricked

いずれも同じ文中にある空所ですので、２つまとめて片付けてしまいましょう。

'But that's how you appear to me,' said Peter, and he told the Princess the whole story about how he had (　(10)　) the mirror, and how he had (　(11)　) the dragon.
訳：「でも、僕にはそう見えるんです」とピーターは言うと、王女様にその鏡を(　10　)経緯や、ドラゴンを(　11　)経緯の一部始終を話しました。

ピーターが王女様に the whole story を話したとあり、しかもそれは the mirror と the dragon に関係しているわけですから、ここに至るまでにピーターが経験した出来事を全部話したのだろうと予測できると思います。正解は、(10)は(ウ) got「手に入れた」、(11)は(エ) tricked「うまくだました」となります。

この問題が厄介なのは、本文を全て読み通した人ならば楽勝な問題なのですが、パラグラフリーディングと称して表面をなぞるような読み方しかしていない人は(11)でうっかり(ウ)を選んでしまうように仕組まれていることです。事実、ピーターは'Then I shall have to kill you,'「ならば、僕はお前を殺さないといけない」と言っているのですが、続く文をきちんと読んでいれば And then and there the dragon turned on its tail and ran off over the mountains as fast as it could, and was never seen again.「ドラゴンはたちまち尻尾を巻いて一目散に山を越えて逃げていってしまい、そして二度と姿を見せることはありませんでした」とあるので、(ウ)は間違いだと判断できます。

(12) 空所(　(12)　)を埋めるのに最も適当な語句を次のうちから選び，その記号を記せ。
（ア） ignore us
（イ） laugh at us
（ウ） look back at us
（エ） respect us

空所(12)はお妃様の'People will (　(12)　) because he is not a real prince.'という発言の中にあります。彼（＝ピーター）が本当の王子ではないという理由で民衆（王族の発言なので people は「人々」ではなく「国民、民衆」と訳すべきです）が行う行為を選ぶことになります。候補となるのはネガティブな内容である(ア)か(イ)となります。常識的に考えれば民衆が王族を無視するというのはあまりに異常なので、(イ)が正解だろうと判断できなくもありません。もっと確実な解答根拠を見出すなら次の文になるでしょう。

But when he looked in the magic mirror, do you know what he saw ? Instead of a rich and magnificent prince, he saw himself in his own rags — Simple Peter.
訳：ですが、彼が魔法の鏡を覗いたとき、何が見えたでしょうか。金持ちで立派な王子様ではなく、いつものぼろ切れを身にまとった自分自身を、すなわち、お人好しのピーターを見えたのです。

ここで質問です。魔法の鏡は自分が他の人にどのように見えているかを映し出してくれます。それでは、この文脈における他の人とは一体誰のことでしょうか。民衆だと分かれば、(ア)の ignore はおかしいと分かります（無視しているならそもそもピーターを見ていない筈です)。

(13) 空所(　(13)　)を埋めるのに最も適当な英語 2 語を記せ。

早速、空所を含む文を見てみましょう。

But it didn't worry him. He smiled and said to himself, 'At last ! Everyone sees me as I (　(13)　) !'
訳：ですが、彼はそのことを気に病むことはありませんでした。ピーターは微笑むと、こう心の中で呟いたのです。「ついにやったぞ！ みんなが(　13　)を見てくれている！」

At last !「ついにやったぞ！」と言っているので、どうやらピーターは以前から願っていた何かを実現したようです。そしてそれは、この前の文に合った内容、すなわち魔法の鏡に Simple Peter が映っていたことに関係しています。解答の鍵は、(5)の問題に挑んだときに見た、ピーターが旅に出たきっかけにあります。

'I only see a goose,' said Peter, 'but *I'm* not a goose. I'll show you all ! I'll seek my fortune, and then you'll <u>see me as I really am</u> !'
「ガチョウしか見えません」とピーターは言いました。「でも、*僕*はガチョウなんかじゃない。今に見てろよ。出世してやるぞ。そうすればみんなが僕をありのままに見てくれるようになるだろう」

そう、実は全く同じ構造がここにあったのです。従って、答えは「really am」です。

(14) この物語の登場人物のうち，次の描写にそれぞれ最も当てはまる人物は誰か。文中の語句を用いて，定冠詞(the)に続けて英語で記せ。
(a) The person who is worried about Peter's social position.
(b) The person who makes fun of Peter.
(c) The person who warns Peter about a danger.

この問題も、本文全体を浅く読んでいると足下を掬われかねません。小説読解において登場人物の把握は必須ですので、それを怠ってさえいなければ問題なく正答できた筈です。正解は、(a) the Queen、(b) the farmer、(c) woodcutter です。

最後に、全訳例を掲載しておきます。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

ある朝、お人好しのピーターが畑仕事に行こうと歩いていると、道端に腰を下ろしている1人の老婆に出会いました。

「おはよう、お婆さん」と彼は声を掛けました。「どうしてそんなに悲しそうな顔をしているんですか」

「指輪を失くしてしまったんだよ」と老婆は言いました。「そいつはこの世界に2つとない指輪なのさ」

「探すのを手伝いましょう」とお人好しのピーターは言うと、老婆の指輪を探すために四つん這いになりました。

それから彼は長い間探し続け、ようやく葉っぱの下からその指輪を見つけ出しました。

「ありがとう」と老婆は言うと、その指輪を自分の指にするりとはめました。それから、老婆はエプロンから1枚の鏡を取り出すとピーターに手渡して言いました。「これを褒美に取っておいておくれ」

「鏡なんて僕が何に使うんですか」とピーターは尋ねました。

「そいつは普通の鏡なんかじゃないよ」と老婆は答えました。「そいつは魔法の鏡なのさ。この鏡を覗き込むと、ありのままの自分の姿ではなく、他の人たちの目に映る自分の姿が見えるのさ」

お人好しのピーターは鏡を顔の高さにまで持ち上げると、鏡の中を覗き込みました。はじめは横を向き、それから反対の方向を向きました。等々彼は頭を振ってこう言いました。「ううん、確かに魔法の鏡なのかもしれないけど、僕には何の役にも立ちませんよ。僕の顔が全く見えないんだもの」

老婆は微笑むと、こう言いました。「その鏡は決して嘘をつかないよ。そいつは他人の目に映る本当のお前さんの姿を見せてくれるだろうて」それから老婆は指輪にさわると、消えていなくなりました。

さて、お人好しのピーターはひどく驚いて、暫くの間そこに立ち尽くしていました。それから彼は再び鏡の中を覗いてみましたが、鼻を鏡にくっつけてみても、自分の姿はやはり見えません。

ちょうどその時、1人の農夫が馬に乗って通りかかりました。「すいません、」とお人好しのピーターは言いました。「鏡の中の僕を見かけませんでしたか。この鏡の中にはいないんです」

「ああ」と農夫は言いました。「それなら半時間ほど前に見たぞ。あっちの方へ走っていったな」

「ありがとう」とピーターは言いました。「そいつに追いつけるかどうかやってみます」そしてピーターは道を走り去って行きました。

農夫は笑うと、「あのお人好しのピーターは本当にガチョウみたいだな」と心の中で呟きました。そして、彼はそのまま行ってしまいました。

お人好しのピーターはどんどん走って行き、鍛冶屋のところまでやって来ました。

「そんなに急いで走ってどこへ行くんだい、ピーター」と鍛冶屋が呼びかけました。

「鏡の中の僕をつかまえようとしているんです」とピーターは答えました。「農夫のジョンさんが、こっちに走っていったと教えてくれたんです。あなたは見かけませんでしたか」

鍛冶屋は親切な人だったので、頭を振るとこう言いました。「農夫のジョンはお前に嘘を教えたんだよ。鏡の中のお前がお前から逃げていくわけがないだろう。鏡を覗いてごらん。そいつはそこにちゃんといるから」

それでピーターは魔法の鏡を覗き込んだのですが、何が見えたでしょうか。黄色いくちばしで黒い目をした1羽のガチョウがまっすぐ彼を見つめ返しているのが見えたのです。

「ほら、自分の姿が見えるかい」と鍛冶屋が尋ねました。

「ガチョウしか見えません」とピーターは言いました。「でも、*僕*はガチョウなんかじゃない。今に見てろよ。出世してやるぞ。そうすればみんなが僕をありのままに見てくれるようになるだろう」

こうして、ピーターは立身出世の旅に出掛けました。

ほどなくして、ピーターは木こりの一家に出会いました。彼らは家財道具一切を背負ってピーターの方へやって来ていました。

「どこへ行くんですか」と彼は尋ねました。

「この国を出て行くところだよ」と木こりが言いました。「ここにはドラゴンがいるからね。そいつは人間の50倍も大きくて、お前さんなんかひと口で食べてしまうだろう。今そいつがこの国の王様の娘をさらって行ったから、今晩の夕食に食べるつもりだろうよ。だから、もしお前さんがそちらの方角に向かうつもりなら気をつけた方がいいぞ」そう言うと、一家は急いで立ち去って行きました。

ピーターが先を進んで行くと、突然恐ろしい物音が聞こえてきました。岩のあたりを見回すと、そこにドラゴンがいるのが見えました。そいつは木こりが言っていたようにピーターの50倍も大きくて、石で歯を研いでいるところでした。

「おお。お前がドラゴンだね」とピーターが尋ねました。ドラゴンは歯を研ぐのをやめて、大きくて獰猛な目でピーターを睨み付けました。

「そうだ」とドラゴンは言いました。

「ならば、僕はお前を殺さないといけない」とピーターは言いました。

「*何だと*」とドラゴンは火を吐きながら言いました。「それで、*お前*がどうやってこの*俺*を殺すのかね」

そこで、ピーターは言いました。「ああ、*僕*がじゃあないんだ。この岩の向こう側に、僕は最も恐ろしい生き物を隠しているんだ。そいつはお前の50倍も大きくて、*お前*をひと口で食べることだってできるぞ!」

「ありえない!」とドラゴンはほえると、岩の向こう側に飛びかかりました。さて、ピーターはあだ名の割にはそんなにお人好しではなく、そこに魔法の鏡を隠しておいたのです。だから、ドラゴンが岩を飛び越えてきたとき、ドラゴンはその鏡と向き合うことになりました。そしてそこで、ドラゴンははじめて他の人たちの目に映る自分自身の姿を見てしまったのです。50 倍の大きさで、自分をひと口で食べてしまうことのできる姿を! ドラゴンはたちまち尻尾を巻いて一目散に山を越えて逃げていってしまい、そして二度と姿を見せることはありませんでした。

それからピーターはドラゴンの洞窟へ入って行くと、王様の娘を見つけました。そして、彼女を宮殿に連れて帰りました。すると王様はピーターに宝石やきらびやかな衣装を与え、全国民が彼に喝采を送りました。その時、ピーターが魔法の鏡を覗いてみると、今度は何が見えたでしょうか。彼に見えたのは、勇猛なライオンの姿をした自分でした。他のみんなは彼をそんなふうに見ていたのです。ですが、彼は心の中でこう呟きました。「僕はライオンじゃない! ピーターなんだ」

ちょうどその時、王女様がやって来たので、ピーターは彼女に鏡を見せて、そこに何が見えるか尋ねました。

「世界で最も美しい女の子が見えます」と王女様は言いました。「でも、*私*は世界で最も美しい女の子なんかじゃないです」

「でも、僕にはそう見えるんです」とピーターは言うと、王女様にその鏡を手に入れた経緯や、ドラゴンをうまくだました経緯の一部始終を話しました。

「ですから、お分かりの通り、僕は本当はガチョウじゃありませんし、本当はライオンみたいに勇敢でもないんです。僕

はただお人好しのピーターなんです」

王女様はこの話を聞いて、ピーターの正直さを好ましく思うようになりました。そして間もなく、彼女は彼を愛するようになりました。そして王様は、ピーターがただの貧しい農夫の息子であるにもかかわらず、2人が結婚することを認めました。

「でも、あなた!」とお妃様は言いました。「ピーターは本当の王子ではないのですから、私達は国民のいい笑い物になってしまいますわ」

「そんなことがあるか!」と王様は答えました。「彼を今まで誰も見たことがないような立派な王子に仕立て上げるのだ」ですが、お妃様の言ったことは正しかったのです…。

結婚式の日、ピーターは金と毛皮で飾り立てられた最高の衣装に身を包んでいました。ですが、彼が魔法の鏡を覗いたとき、何が見えたでしょうか。金持ちで立派な王子様ではなく、いつものぼろ切れを身にまとった自分自身を、すなわち、お人好しのピーターを見えたのです。ですが、彼はそのことを気に病むことはありませんでした。ピーターは微笑むと、こう心の中で呟いたのです。「ついにやったぞ! みんなが本当の僕の姿を見てくれている!」

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

いかがだったでしょうか。東京大学の英語は、奇をてらったテクニックを弄することよりも、基本事項を深いレベルで理解し、運用することを求めているのだということがお分かり頂けたのではないかと思います。そして、強者を志す貴方にとっても東京大学が発するこのメッセージはしかと受け止めてほしいと思います。

以上で、今年度の私の担当は終わりです。また機会があれば紙面で、或いは教室でお会いしましょう。